

水準の住宅ストックの形成を牽引していく。

災害対応としては、応急仮設住宅、災害公営住宅の建設というプレ協の大きな使命を果たしていく。昨年1月に発生した能登半島地震では、石川県の要請を受けて4,467戸の応急仮設住宅の供給を完了。これまでの多くの実績・経験を活かし、今後想定される首都直下地震、南海トラフ地震など大規模災害に対する事前対策に取り組んでいくことが重要である。プレ協では昨年より震災発生直後の初動期における事前発生対策の策定とBCP対応に重点的に取り組み、防災機能強化としての本部事務所移転を6月9日より実施。同じ千代田区内で、これまでの神田

小川町から住団連（住宅生産団体連合会）本部が位置する麴町に移転。重要データの電子化や災害対策マニュアルの改善、緊急対応の準備、日頃からの地方公共団体との連携やDX化などを進めていく。

ストック対策への取り組みとしては、十分な耐震性能、省エネ性能を満たさないものが数多くあり、課題が山積みである。国の支援策を有効に活用し、除却やリフォームを進め、将来世代に継承される良質な住宅ストックの形成につながる活動に取り組んでいく。また、引き続き人材育成に積極的に取り組み、施工・生産の合理化に取り組む、良質なプレハブの普及促進に努めていく。

プレカット / サイディング

大型パネルとのデータ連携による REG プレカット 採寸レスの新工法を今期よりリリース

REG プレカット協議会

CAD/CAMの連動によるサイディングプレカット「REG（R：リサイクル、E：エコロジー、G：外装）プレカット」の普及に取り組む、REGプレカット協議会（愛知県豊橋市、石原教行会長）は5月30日、JR豊橋駅前のホテルアークリッシュ豊橋にて第14回REGプレカット協議会総会を開催した。

総会の冒頭では、石原会長が主催者を代表して挨拶に立ち、「今回、REGプレカットでは採寸レスの新工法をリリースすることになりました。これは、当協議会のREGプレカット工法とウッドステーション(株)の大型パネル工法を掛け合わせたもので、工場で製造される高精度のパネルとCADデータ連動でプレカッ

トされたサイディングによって現場における施工効率を最大化させる仕組みです。従来の工法と比較して、現場の採寸作業を削減し、施工時間の短縮、品質向上、コスト削減の実現が可能となります。この新工法では、品質の安定や安全性の向上、施工スピードの向上はもちろん、現場の省力化も可能となっており、職人不足の解消にも効果的です。また、作業フローも従来と比較して、窓取り付けや防水紙の工程が削減され、さらに現場での採寸・カットの工程も削減されるので、端材や労災のリスクも大幅に低減することができます。今後の展望としましては、新工法の普及促進を図り、建設業界全体の生産性向上に貢献していきたいと考えております。また、当協議会が培った開発ノウハウと技術をREGプレカット協議会会員に積極的に提供していきたいと思っております」と、新工法の概要と今後の展開などについて述べた。

総会は石原会長が議長となって進行し、2024年度の事業報告および会計方向、2025年度の事業計画および収支予算案について審議され、いずれも原案通りに議決された。

2025年度の事業計画については次の通りとなっている。

①研修会

▽採寸、CAD、加工、施工担当者の標準化を継続指導



第14回REGプレカット協議会総会

▽採寸レス化に向けた、CADおよび加工者の知識・技術の育成

②広報ツール更新

▽ホームページは情報発信から新規会員申込、ビルダーから問合せを随時更新

▽採寸レスプレカットの販売促進に向けたホームページの更新とパンフレットの配布準備

③サイディング以外のプレカット対応

▽面材、耐力壁等のプレカット

▽大型パネル・採寸レスに対応（軒天材等）

④その他

▽職人不足対応として職人（作業員）の育成を進める

▽より多くの職人にプレカット施工を体験してもらう

⑤その他

▽CADセンターを共有+フィリピンCADセンターの継続

▽CADのバージョンアップ